

経 営 状 況 報 告 書

令和4年度 事業報告

令和5年度 事業計画

株式会社 道の駅とよはし

I 令和4年度 事業報告

1 総括

令和4年度は、令和3年度に引き続き、地元のこだわりの食材を使った飲食店及び特産物を扱うショップが出店する「Tomate（トマッテ）」と旬の農産物を取り揃える「あぐりパーク食彩村」を核に、関係者と連携しながら豊橋の食と農業の魅力発信に努めました。道の駅として道路利用者に休憩等の場を提供するだけでなく、ご当地ならではの特徴を生かした魅力づくりに努め、テレビ、雑誌などの媒体に積極的な情報発信を行ってきた結果、年間の来場者数224万人を達成し、市内外のお客様に豊橋の食や農を楽しんでいただける施設として評価いただきました。

事業内容については、地産地消や食農教育等を推進することを目的に、インスタグラムを核としたSNSでの積極的な農産物の魅力発信や当社のほ場を利用した農業体験の実施、地元大学生との6次産業化商品の開発、道の駅とよはしで実施するマルシェによる地元農産物のプロモーション、地元トマト農家によるトマト講座を実施するなど、農業の推進を図りました。

その他にもE-バイクやネクストクルーザーを主とした観光プログラムの企画運営による観光の推進を図り、地域の振興にも寄与しました。

また、道の駅とよはしの管理運営については、施設美化の維持や施設修繕、設備の保守点検、定期的なホームページの更新、来場者の観光案内や要望への対応などお客様の満足度向上のための空間づくりに努めました。

2 主な事業の実施状況に関する事項

(1) 地域連携及び産業振興業務

ア 直営店事業

豊橋の今を伝えるコンセプトショップ「temiyo（テミヨ）」にて、豊橋の特産品及び6次産業化商品を販売し、地元事業者及び地元生産者の販路拡大に寄与しました。

イ テナント事業

Tomate内の飲食店及び特産品店舗では、地元のこだわりの食材を使った商品を販売することで地産地消の促進に努めました。

(2) 企画イベント業務

道の駅とよはし等を会場として、豊橋産農産物及び特産品の認知度向上並びに消費促進を目指した取組を、以下のとおり実施しました。

イベント名	内容	期日	会場	参加者数等
水曜日のマルシェ	地元の農家及び事業者を中心に販路拡大の支援を実施	毎月第一水曜日の計9回	道の駅とよはし	総来場者数：35,615人
ウィークエンドマ	地元の農家及び事業者を	毎月第三土	道の駅	総来場者数：

マーケット	中心に販路拡大の支援を実施	曜日の計10回	とよはし	57,938人
道の駅3周年記念キャンペーン	お買い物をされるお客様を対象に景品が当たるキャンペーンを実施	4月23日～5月31日	道の駅 とよはし	応募総数： 1,408通
道の駅オータムフェスティバル	お買い物をされるお客様を対象に景品が当たるキャンペーンを実施	10月8日～11月30日	道の駅 とよはし	応募総数： 1,876通
ものづくり博 道の駅フェア	豊橋の特産品の販売プロモーションを実施	6月17日・18日	豊橋市総合体育館	総来場者数： 約10,500人
高田真希マルシェ	豊橋の特産品の販売プロモーションを実施	6月25日	こども未来館	来場者数： 約5,000人
豊橋肉万博2023	愛知県産の肉やクラフトビールを扱う店舗を集め、2日間にわたり肉イベントを開催	3月25日・26日	道の駅 とよはし	総来場者数： 13,351人
オドル野菜プロジェクト	EXILEのメンバー「USA」と一緒にダンスをしながら、種まきから収穫までを体験するイベントを開催	5月28日・7月9日・8月6日	道の駅 とよはし	参加者数： 延べ393人
Go!CYCLE2022-2023	東三河や浜名湖周辺のチェックポイントを巡るサイクリングイベントを開催	11月5日～3月31日	道の駅 とよはし	参加者数： 延べ77人

(3) 管理業務の基本的取組

- ア 定期的に館内及び駐車場の巡回を行い、不審者の侵入防止に努めました。
- イ 始業前後に施設の整備点検を実施し、安全確認を行いました。
- ウ 関係法令に基づいた施設、設備、機械等の点検を実施しました。
- エ 守秘義務を遵守し、個人情報保護関係法令及び豊橋市個人情報保護条例に基づき、個人情報保護マニュアルに沿った適切な情報管理を行いました。

(4) 事業者サービス等の取組

- ア キッチンカーを含む、意欲ある事業者の道の駅への出店を推進しました。
- イ 豊橋市の観光資源の魅力発信を目的とし、ネクストクルーザーを利用したガイドツアーを実施しました。

II 令和4年度 決算報告
貸借対照表
(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	77,737,153	流 動 負 債	16,433,356
現金・預金	55,927,623	買掛金	1,630,818
売掛金	13,506,313	未払金	3,224,471
商 品	2,735,783	未払法人税等	606,800
貯 蔵 品	1,842,533	未払費用	8,275,354
前 渡 金	3,318	源泉預り金	78,313
立 替 金	1,369,263	未払消費税等	2,617,600
未 収 入 金	1,508,360	固 定 負 債	3,600,000
前 払 費 用	843,960	預り保証金	3,600,000
未収法人税等	0	負 債 合 計	20,033,356
固 定 資 産	11,791,241	(純資産の部)	
有形固定資産	10,239,531	株 主 資 本	69,495,038
構 築 物	8,523,449	資 本 金	30,000,000
車 両 運 搬 具	8,780,242	利 益 剰 余 金	39,495,038
工 具 器 具 備 品	7,506,625	繰越利益剰余金	39,495,038
減価償却累計額	△14,570,785	純 資 産 合 計	69,495,038
無形固定資産	1,542,500		
商 標 権	1,542,500		
投資その他の資産	9,210		
リサイクル預託金	9,210		
資 産 合 計	89,528,394	負 債 及 び 純 資 産 合 計	89,528,394

損益計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
売 上 高	106,172,356	106,172,356
期 首 商 品 棚 卸 高	2,468,180	
仕 入 高	20,964,345	
期 末 商 品 棚 卸 高	2,735,783	20,696,742
売 上 総 利 益		85,475,614
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		77,249,979
役 員 報 酬	360,000	
給 料 手 当	34,133,211	
人 材 派 遣 費	1,576,548	
法 定 福 利 費	2,845,844	
福 利 厚 生 費	274,805	
広 告 宣 伝 費	5,485,350	
旅 交 際 費	308,537	
交 会 議 費	80,021	
車 両 信 費	73,884	
通 信 費	510,400	
水 道 光 熱 費	496,802	
租 税 公 課 費	6,907,218	
消 耗 品 家 賃 料	158,450	
地 代 一 ス 費	5,613,491	
リ 修 繕 費	631,716	
保 険 料	1,248,132	
支 払 手 数 料	700,883	
諸 減 価 却 費	669,570	
研 修 料 費	3,158,070	
燃 料 費	10,000	
顧 業 務 問 託 費	4,928,262	
業 寄 付 金 費	14,092	
雑 費	165,349	
	827,000	
	5,967,556	
	14,328	
	90,460	
営 業 利 益		8,225,635
営 業 外 収 益 入	2,399,362	2,399,362
雑 収		
営 業 外 費 用 失	1,151	1,151
雑 損		
経 常 利 益		10,623,846
固 定 資 産 除 去 損	931,968	931,968
税 引 前 当 期 純 利 益		9,691,878
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		2,202,900
当 期 純 利 益		7,488,978

株主資本等変動計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	利 益 剰 余 金		純 資 産 合 計
		繰越利益剰余金	株主資本合計	
当 期 首 残 高	30,000,000	32,006,060	62,006,060	62,006,060
当 期 変 動 額				
当 期 純 利 益	—	7,488,978	7,488,978	7,488,978
当 期 末 残 高	30,000,000	39,495,038	69,495,038	69,495,038

Ⅲ 令和5年度 事業計画

1 基本方針

地域住民と交流を図ることのできる地域密着型の体験型イベント等を実施したり、地域振興施設で地域情報を発信したりすることで、地域活性化を図るとともに、来場者の誘客を図ります。

また、地域振興施設で地元農産物等を使った6次産業化商品等の特産品の販売や地元固有の農産物、食彩村出荷者による農産物加工品等を販売することで地域商社としての機能を果たし、農産物のブランド化を推進し、地域の産業振興を進めます。

さらに、市と連携して食農教育、農福連携及び健康増進に係るイベントを企画及び実施します。これにより、若年者から高齢者まで幅広い来場者のニーズに対応し、併せて、障がい者と健常者の交流を促し、まちづくりに貢献します。

加えて、「防災道の駅」にも認定され、防災拠点としての機能を有しているため、災害発生時には、防災機能を発揮できるよう適切な管理を行います。

2 主な事業

(1) 施設の運営に関する業務

ア 情報提供業務

(ア) 地域振興施設の来場者に対し、観光案内所、観光案内板及び観光案内パンフレット等の設置により周辺の観光情報を提供します。

(イ) 日本道路交通情報センターによる道路交通情報及び気象庁による気象及び災害情報の提供をします。

(ウ) ポスター、パンフレット等の紙媒体並びにホームページ及びSNSにて、施設の特色、イベント等の情報発信を積極的に行います。

イ 観光振興・企画イベント業務

(ア) 豊橋市、豊橋観光コンベンション協会、穂の国東三河観光ビューロー等と連携して観光情報を収集し、それぞれの機関が作成する観光パンフレット等を設置するなどし、観光情報を発信します。

(イ) 豊橋農業協同組合、周辺自治会等と定期的な意見交換を行い、農産物の収穫イベント、お祭り等の地域行事に関する情報を収集します。

(ウ) 地元の農業関係者と連携し、消費者が生産者から直接説明をしてもらい購入できるマルシェなどを開催し、地元の方と地域振興施設来場者の交流を促進し、地域活性化に努めます。また、表浜海岸の魅力を発信する企画を行うなど、豊橋の特色及び資源を活かし、地域振興施設を起点とする着地型の体験プログラムの企画提案を行います。

(エ) 中部各県の道の駅管理者で組織する中部ブロック道の駅連絡会の会員として情報収集に努めます。広域の観光情報についても他の道の駅と連携して、他の道の駅の観光案内パンフレット等もコーナーを設けて設置するだけでなく、東三河や遠州地

域などにある周辺の道の駅と催事などを共同で開催するよう調整し、地域振興施設の認知度向上と広域からの集客促進に努めます。

ウ 広告宣伝・広聴業務

- (ア) イベント等の話題をマスコミに定期的に情報配信することで、TV、新聞、雑誌等から取材が増えるように努めます。
- (イ) 紙媒体、ホームページ、SNS等多様な媒体を用いた効果的な広告宣伝を行います。
- (ウ) 来場者から施設の利便性向上に繋げる意見を聴取するため、定期的にアンケートを実施します。また、ホームページにて、来場者から随時意見聴取できる仕組みを構築します。
- (エ) 他の商業施設や類似施設を適宜調査し、それらの施設の長所を地域振興施設の運営に取り入れるよう努めます。
- (オ) 市内で実績のある事業者に飲食及び物販コーナーの運営を依頼し、地域振興施設全体でイベントを企画し、販売を促進するため、共同で広告宣伝を行います。イベントについては、隣接する民間施設「食彩村」と一体となり、地域振興施設と併せた「道の駅」として、効果的・効率的な宣伝に努めます。

エ 地域連携及び産業振興業務

- (ア) 施設内に豊橋の特産品、名産品等を販売する直売コーナーを設置し、自ら運営します。具体的には、コンセプトショップtemiyoを運営し、豊橋の特産品を中心に販売するほか、地元の食材を活かした商品開発等に取り組みます。
- (イ) インターネットを活用した通信販売に取り組み、地元特産品のリブランディングと農林水産事業者の新たな販路の開拓に努めます。具体的には、通販サイトBASEを活用し、豊橋の特産品や農産物の取扱いを行います。また、販路を増やしたい意欲的な農家と協力し、通販サイトでの商品化を目指す取組を行います。
- (ウ) 新商品開発に協力し、新たな取引先の開拓や取扱商品の拡充を行い、地域産業の活性化に努めます。
- (エ) 安全性等信頼できる地元生産者及び業者から農産物及び農産物加工品を仕入れます。商品の仕入れの際は、必ず商品の特性についてのこだわりなどをヒアリングし、店舗スタッフがお客様に説明ができるように教育を行っていきます。
- (オ) 販売ブースでは、冷蔵設備を完備し、消費期限に十分注意しながら在庫管理をします。毎日在庫についての賞味期限及び消費期限の確認を行い、信頼される店舗づくりを目指します。
- (カ) 市内で生産された農産物の特産品化・ブランド化を推進するため、豊橋産の主原料を活用して加工された地元農産品、加工品等を積極的に展示し、及び販売します。
- (キ) 農家を作る6次産業化商品を開発段階からサポートし、地域振興施設で販売することで、クオリティが担保された新たなブランド商品を創出します。
- (ク) 加工業者とのマッチング、商品開発に関しデザイナー等の専門家へ相談する機会をつくり、戦略的な商品開発を促します。

(ケ) 食農について関心を高められる親子をターゲットにしたイベントを開催します。

(年4回程度)

(コ) 特別支援学校と連携し、特別支援学校で栽培した農産物を販売する機会を提供します。

(サ) 健康について、関心を高められるイベント等に積極的に協力し、市民の健康意識向上に努めます。

(2) 施設の維持管理に関する業務

ア 関係法令に基づいた施設、設備、機械等の点検を実施します。

イ 植栽樹木、芝生等のせん定、外構部分及び敷地内外の雑草等の除草作業を実施します。

ウ 近隣自治会、警察等の関係機関と連携を図り、周辺地域への騒音に配慮し、防犯に努めます。

(3) 施設の利用に関する業務

入場者が使いやすく、にぎわいのある運営とするため、施設の利用調整を行い、施設の利用方法について、入場者に十分な指導及び説明を行うことで、公の施設としての適正な運営ができるように努めます。

(4) 自主事業

ア アクティビティ事業

地域振興施設を拠点とした、観光アクティビティツアー（西七根から高塚・伊古部までにかけての表浜ルート）を実施し、並びに豊橋南部エリアの新たな地域資源を発見し、及び発信するなどし、観光振興に努めます。

イ キッチンカー事業

来場者の多い土日を中心に地元農産物を用いたメニューを提供するキッチンカーを配置することで、地域振興施設内のフードコートの機能の強化及び豊橋産農産物のPRに努めます。また、全国各地の御当地グルメを提供するキッチンカーを集めたイベントを開催し、地域振興施設への誘客及び認知度向上に努めます。

IV 令和5年度 収支予算

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	122,254
売 上 原 価	26,736
売 上 総 利 益	95,518
販売費及び一般管理費	84,744
営 業 利 益	10,775
営 業 外 収 益	0
営 業 外 費 用	0
経 常 利 益	10,775
法 人 税 等	3,071
当 期 純 利 益	7,704